



猪風来作 法曾茶碗



古法曾焼 大甕



猪風来作 縄文・草の精靈
(法曾青白磁壺)



上- 小野真由美作 鶏のオブジェ
下- 米本久美子作 人面把手花器

変 幻 自 在
法 曾 焼 展

会期 2017年6月1日(木)~8月27日(日)

新見市法曾には、江戸後期頃に途絶えて以来「幻の法曾焼」といわれてきた古来の焼物があります。2005年の猪風来美術館(法曾陶芸館)開館を期に、法曾焼同好会が結成され復興の試みが開始しました。土や製法、焼成法の解明や穴窯建設を進め、2007年には焼締めの法曾焼水甕、2009年には磁器・施釉による遠州ゆかりの茶器が焼き上がり、150年ぶりの法曾焼復活が成し遂げられました。今回の企画では、近隣に伝わる古法曾焼の器から、新法曾焼——法曾焼の技法と縄文造形を融合した『縄文法曾陶』の猪風来作品や若い感性の村上原野作品、法曾焼同好会会員や陶芸教室生の作品——までを幅広く展示。地元の土と地域の伝統を受け継いだ法曾焼の歴史を偲ぶとともに、再び甦った法曾焼が地域の人々に親しまれながら芸術作品として開花し、未来へ創造の翼を広げる变幻自在の姿をご紹介します。